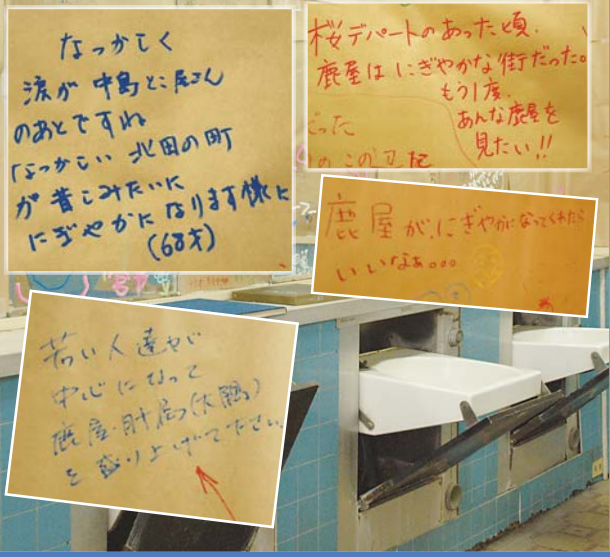


商店街色バラ屋 鹿フェスティバル街

おかえりなさい、
商店街。



まちの思い出ブースにつづられた 商店街の思い出や鹿屋への想い



「多くのお店と多くの笑顔があふれ、人と人がつながる風景をもう一度見たい」との思いから始まった「鹿屋バラ色商店街フェスティバル」。

30歳前後の若者30人で組織された実行委員会は、昨年12月から商店街との交渉や、空き店舗の清掃に奔走し、8つの空き店舗が復活。

2月26・27日に行われたバラ色マーケットでは、趣旨に賛同した30以上の店舗やイベントが協賛し、昔日を知る訪れた市民は、昔のように活気にあふれた商店

【問い合わせ】

市商工振興課

☎0994-311164

街を懐かしんでいました。路上で交わされる顔見知りとの会話、売り子さんの丁寧な接客、昔の街並みを教えてくれる高齢者。そこには、商店街でしか見ることのできない確かな「つながり」がありました。

実行委員長を務めた池田宏利さん（33歳）は、「このイベントが商店街再生への転換点に繋がってくれば」と話してくれました。



▲桜デパートで販売していた饅頭を串良商業生が販売



▲レコード販売やライブが行われたブルーシート鹿屋



▲まちの思い出などが書かれたまちの思い出ブース



▲写真展・口蹄疫チャリティなどのイベント本部



▲ファッション雑貨、福祉店舗などの各種ブース



▲鹿屋おもちゃ病院・陶器市・骨とう市などの各種ブース



▲地元農産物や飲食店が入った各種ブース



▲鹿屋の美容室が取り扱う商品の販売やネイルサロン